

第5節 「プラクティカル・イングリッシュ」(1単位)

1-1 目的

本校の学校設定科目「プラクティカル・イングリッシュ」では、テキストとして『PERSPECTIVES-TEDTALKS』を用いて、様々なテーマに関する自分の意見を、自分の言葉で、その場で語ることができるようになることを目指している。あわせて10月の海外研修において各自の課題研究について、英語でプレゼンテーションができるようになることを視野に入れて授業を展開する。

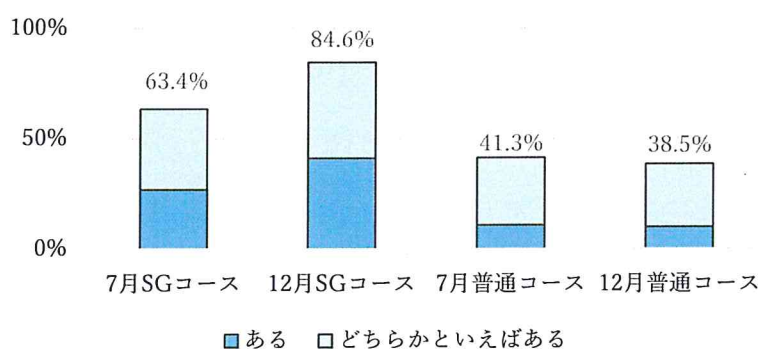
1-2 内容と方法

(1)生徒の現状と「プラクティカル・イングリッシュ」の方向性

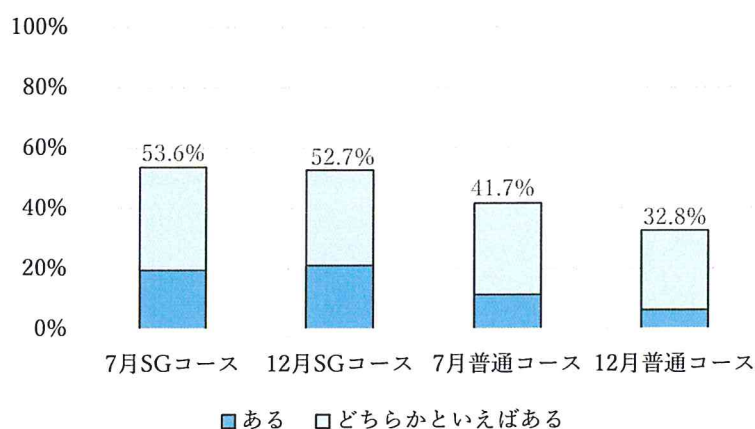
2年次普通科SGコースの対象生徒41人に週1回の授業を展開する。TEDを見て、スピーカーの発信する最先端のテーマや斬新なアイデアについて考え、意見を交換し、さらに発表することで批判的思考力を身につけ、実践的な英語能力を高める。ペアワークやグループワークを中心に、常に英語で自分の意見を発信することを求めている。また心に残るプレゼンテーションのあり方についても、折に触れて生徒に考えさせている。

生徒は入学時より英語に対して高い興味・関心を持っているが、7月と12月に校内で実施した自己評価アンケート結果を比較すると、英語でのプレゼンすることと、英語で協働することにさらに自信をつけたと言える。

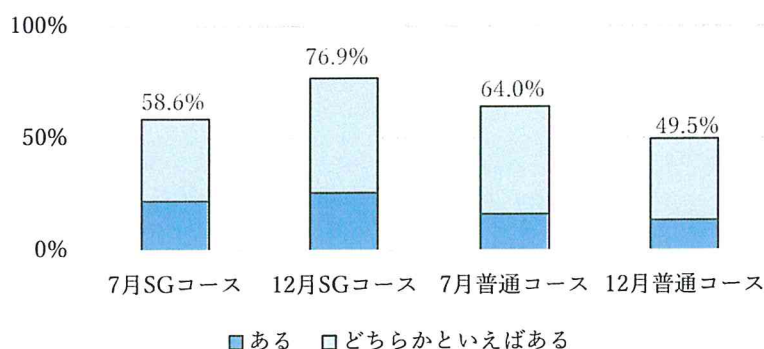
①英語でプレゼンテーションをする自信があるか。



②英語でディスカッションをする自信があるか。



③英語で協働作業などをする自信があるか。



(2) 教員間の方針の共有

日本人英語教諭2名とALT2名、計4名によるチームティーチングで、授業を展開する。授業はオールイングリッシュで行い、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）を高めるためにさまざまな言語活動を行う。授業では主に「聞くこと」「話すこと」を中心に行い、「読むこと」と「書くこと」は課題として生徒に課すことで、4技能のバランスを保つ。

1-3 実施概要

予習をしたうえで授業に臨むよう指導し、テキスト中心に授業を進めることで、オールイングリッシュの授業に対する生徒の不安を和らげた。TEDのスピーチは語彙レベルも高く、内容も多岐にわたるため、様々な写真や動画などの補助教材を用いて、生徒の理解を促した。また、スピーチに関連しながら、ALTのマイケル（米国出身）やナオミ（イギリス出身）が自国や学校での体験を語る場を設けることで、生徒らが異文化を理解する場を意識的に設定した。

10月のアメリカでの海外研修に向けて、課題研究の内容を英語で説明できるよう各自の表現力を磨き、プレゼンテーション能力を高めた。11月初旬には10月の海外研修で交流したプリンストン高校の生徒が来校し授業に参加した。授業で学んだことをこうした交流で活用することで、生徒は英語で協働することにさらに自信を深めた。

SGコースでの一年間を振り返りながら、次期SGコース生の後輩にアドバイスをする手紙を英語で書く課題を課し、その英文による手紙を評価物の一つとした。

2 成果と課題

「プラクティカル・イングリッシュ」では自分の言葉でその場で意見を述べるようになることを目指した。4名の教員が常に教室にいて、個に応じて必要なサポートを与えることができた。また、ペアワークやグループワーク、教室の4隅に10名ずつ生徒を集め、それぞれに教員1人がついての簡易プレゼンテーションなど、様々な活動を試すことができた。週1時間ではあったが効果的に実践的英語力を高めることができたと思われる。

ただし、アンケート②から分かるように英語でディスカッションすることに対する自信は7月から12月にかけて下がっている。体系的かつ論理的に話し、チームの勝敗を決めるディベートのような活動は、授業であまり取り入れてこなかった。そのため3学期の授業は、英語で自由に意思疎通できる段階から一歩進んで、論理的に話すことができる授業内容に変更し、向上を図った。

第6節 「SG探究活用」(1単位)

1-1 目的

研究成果の発信・提言を行うことで、グローバルリーダーとして必要な発信力、行動力、論理的思考力を身につけることを目指す。

1-2 内容与方法

(1) 授業方法

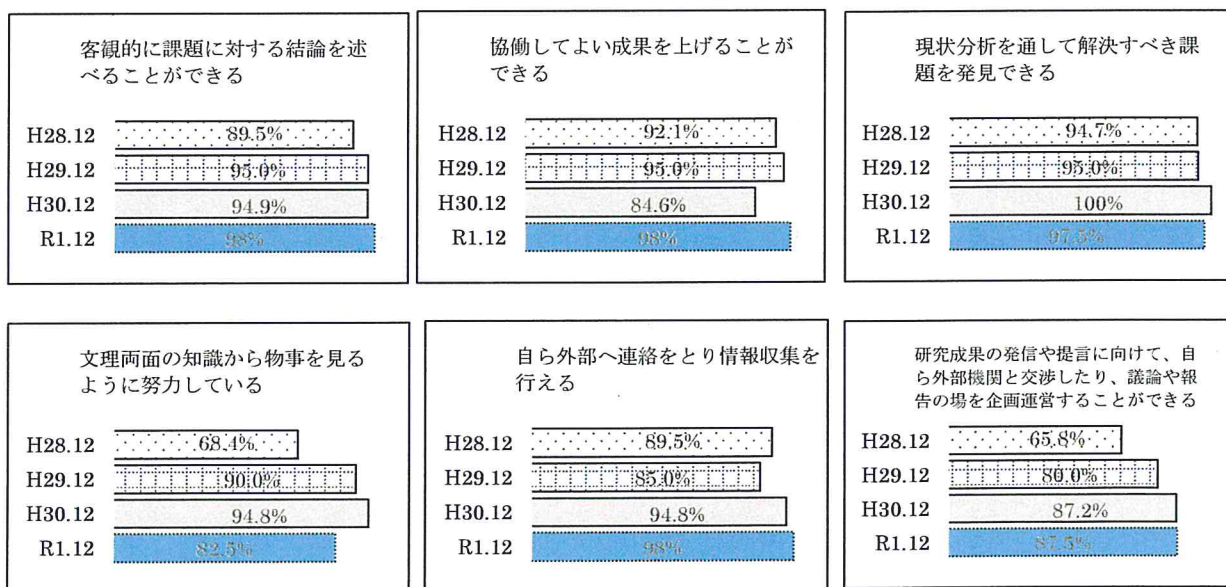
3年次普通科SGコースの生徒40名を対象に、週に1回の授業を展開する。その際に、インテグレートド・イングリッシュと連続で行うことで、7月の成果発表に向けて課題研究を進め、準備などを効果的に行えるよう工夫する。日本人英語教諭2名とホーム担任1名のティームティーチングで行い、昨年度からの流れや活動内容を共有するとともに、英語で自分たちの活動を紹介するサポートができるようにする。

(2) 実施内容

7月の成果発表に向けて、課題研究の内容をローカル問題からグローバル問題へと発展・深化させ、具体的な提言にまとめた。これまでの優れたプレゼンをビデオで確認し、自分たちの課題研究についてさらに考察を深め、構築し直した。ALTや他の英語教員の協力のもと、中間発表を行うことで、伝わる英語でまとめあげることができた。時間が足りないなか、自分ごととして課題を捉え、かつ社会に具体的な提言を行うために、全員が協力せざるを得ない状況であった。6月には特別プログラムとして英語プレゼン講座を実施した。また9月には、米国研修を控えた2年生と合同授業を行い、先輩として2年生に助言する機会を設け、客観的に自分の探究活動を振り返る機会とした。

2 成果

12月に行われた生徒対象のアンケート結果を4年間比較してみると、この授業を通して課題探究力・論理的な思考力・主体的な行動力について生徒たちの自信が、年々深まってきていることがわかる。特に客観的に結論を述べる、協働する、外部に連絡をとり情報収集を行うの3項目でほぼ全員ができると答えていることから、生徒の自信が深まっていることがわかる。研究成果の発信・提言を英語で行うことによって、グローバルリーダーとして必要な資質を少しずつ涵養することができたものと思われる。



第6節 「SG探究活用」

(A) 北信越SGHフォーラム

1. 実施概要

○目的：北信越のSGH校及びアソシエイト校の探究活動のさらなる深化に向けて、各学校の探究活動について情報交換を行うとともに、代表生徒による交流プログラムを実施し、グローバル人材育成の機会を設ける。また、各校の取組を紹介するとともに、生徒交流プログラムも公開することで、SGH事業の成果について発信する。



○日時：平成31年3月15日（金）、16日（土）

○場所：石川県青少年総合研修センター、金沢大学角間キャンパス

○主催：金沢大学、金沢大学附属高校、金沢泉丘高校

○参加者：本校SGコース10名（うち運営2名）、金沢大学附属高校8名、
長野県長野高校7名、長野県上田高校6名、富山県立高岡高校6名、
福井県立高志高校6名、福井県立敦賀高校6名

○日程：

3月15日（金）研修センター	
13：30～ 全体会開会式（ホール）最大300名（開会挨拶：金沢大学附属高校長）	
研修室(1~3)	ホール
14：00～17：30 生徒交流プログラム （「みらい協創プロジェクト」）	14：30～17：00 SGH シンポジウム （各校教員が取組発表）
18：30～ 夕食・（情報交換会）	
～22：00 発表準備，入浴	

3月16日（土）研修センター	
8：30～11：30 生徒交流プログラム（研修室）発表準備	
11：30～12：00 昼食（青少年研修センター）	
3月16日（土）金沢大学	
13：00～14：30 生徒交流プログラム成果発表 （自然科学本館 アカデミックプロムナード）	
14：30～16：00 各校ポスターセッション（20分×4ローテーション）	
16：00～ 閉会式 挨拶：金沢大学 柴田理事 金沢泉丘高校長（自然科学本館 大講義室）	

○内容

①生徒交流プログラム

各学校の代表生徒をシャッフルしてグループ編成を行い、共通した課題解決のために協働作業を実施し、その提案をプレゼンテーションとして発表する。
〔テーマ〕「高校生活の中で感じる“もったいない”を解決する提案を」



②SGH校ポスターセッション

各学校の課題研究をポスター発表

③SGHシンポジウム（教育関係者向け）

各SGH校の探究型学習の取組を発表

〔テーマ〕「探究型学習への挑戦～成果と課題」

2. 生徒の感想

▶ 対面で、住んでいる県も違う人と課題を研究していくのは、チームワークの面でも限られた時間の面でも最初はすごく不安でした。しかし、課題を設定したり解決策を考えたりしていくうちにチームメイトの個々の個性や魅力がどんどん分かり、楽しみながら進めていくことができました。全く違うバックグラウンドを持つみんなと一つの問題について解決していく楽しさとやりがいを見つけることができました。

▶ 具体的なテーマ設定ではなく、ある程度大まかなテーマ設定であったので、班や一人一人いろんな視点から見ることができ、それが意見の多様性にも繋がっていて良いと思った。

▶ 何かお題を与えられて、それを限られた時間の中、グループでそれについてのプレゼンするということは初めての経験でした。アイデアが思い浮かばないとき、誰かしらが必ず意見を言ってくれて、グループで行う意義を実感しました。



▶ 初めてのメンバーで一緒に働くことで、コミュニケーション能力が養われるだけでなく、他県の文化や校風を知ることができ、自分の改善点の発見に繋がると思うので、非常に良い取り組みだと思いました。

3. 成果

SGHとして研究開発の成果を波及することを目的の一つとして、金沢大学附属高校と共同で企画した本フォーラムでは、各校の特徴的な取組を知っていただく機会となった。探究的な学習を進めるにあたり、どのような成果が期待できるのか、何が難しいのかなど先行研究開発を行っているSGH校だからこそ伝えることのできるものを教育関係者に共有することで、重要な使命を果たすことにつながったといえる。また、実験的なプログラムではあったが、学校を超えた学びの場が大きな教育効果をもつ可能性を見出すことができたことは、意義深い挑戦であったといえる。

第6節 「SG探究活用」

【特別プログラム】(B) SGH甲子園での発表

1. 実施概要

○目的：研究発表を他校生徒や一般の方々に対して行うことで、意見や助言をもらい、さらに研究を深めるとともに、準備を通して表現力を磨く。

○日時：平成31年3月22日（金）～23日（土）1泊2日

○場所：関西学院大学（兵庫県西宮市）

○参加者：SGコース代表2チーム

○日程：

10:00～10:30 開会式（中央講堂）

11:00～14:45 研究成果ポスタープレゼンテーション（日本語）

「Biodiversity～フィッシュミールで活かしてミール」

鳥上航平、松本海太、遠田楓、松原優花

13:30～14:00 研究成果ポスタープレゼンテーション（英語）

「栄養情報の「見える化」～健康を促進する食品ラベルの提案」

太田侑里、佐野里奈、村本有彩、吉江美翔、四谷仰

15:00～15:45 高校生交流会

16:00～17:00 表彰式・閉会式

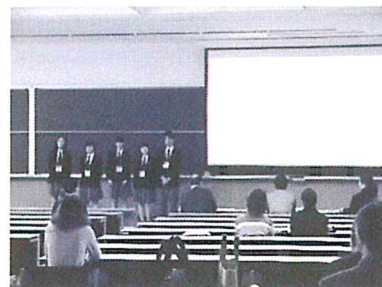


2. 生徒の感想

▶今まで自分にはなかった視点や解決へのアプローチがたくさん得られて、多くの人と意見交換をすることはとても有意義であることを感じました。世界のために身近なところからアクションを起こそうという熱意のある高校生と交流する貴重な機会は、自分の行動を考えさせられ、これからの励みとなりました。

▶オーディエンスの生徒や教員の人たちは日本中の様々な地域から来ていたため、その地域の問題と絡めて自分たちの問題と向き合ってくれたため、また研究の内容に深みが増したのではないかと思います。指摘されたことを中心に自分たちの研究として改善していきたい。

▶出場した私たち自身が研究を全国の人々と共有することの魅力の後輩たちに伝え、研究をさらにレベルの高いものをみんなで作り上げていきたいなと思いました。



3. 成果

全国のSGH校が実践している課題研究に触れ、生徒や教員と意見交換と交流をしたことで、新しい視点に気づき、今後の研究への意欲も高められたようである。こうした交流の場は生徒の飛躍の機会としてたいへん貴重なものだと考えることができる。参加した生徒が今後の研究にその成果を活かしていくことで、他の生徒へもこの行事の成果の還元が期待できる。

第6節「SG探究活用」

【特別プログラム】(C) 研究成果発表会

1. 実施概要

○目的：「SG探究活用」で行っている課題研究の成果を英語で発信・提言することで、グローバル・リーダーとして必要な発信力や論理的思考力・表現力、実践的英語力を身につける機会とする。また、生徒自身が発表会を企画運営することで、主体的行動力を磨く。

○日時：令和元年7月12日（金）13：00～15：00（5・6限）

○会場：本校大会議室、視聴覚室

○参加者：3年SGコース生（40名）

2年SGコース生（41名）

東京外国語大学留学生4名、金沢大学留学生12名、高校教育関係者

○内容：3年SGコースの課題研究を、グループごとに4カ所で発表（使用言語は英語）
留学生や教育関係者、2年SGコース生を対象に発表し、質疑応答を行う。

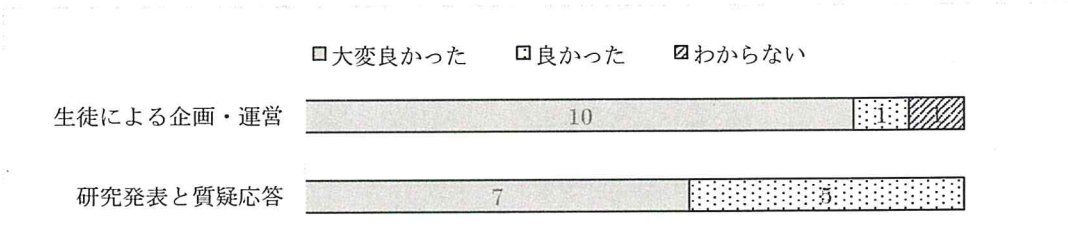
○日程

13:00-13:05	開会の挨拶（岡橋副校長）	大会議室
13:05-13:20 (15分間)	発表・質疑応答 Aグループ1回目	大型モニターで4カ所同時に発表 留学生は指定場所→時間がきたら 次の場所へ（ローテーション）
13:21-13:36 (15分間)	発表・質疑応答 Bグループ1回目	
留学生と3年SGコースの生徒は食堂へ移動		
13:40-14:00 (15分間)	休憩・交流会	フリートーク 34H生徒による企画・運営
留学生と3年SGコースの生徒は大会議室・視聴覚室へ移動・準備		
14:05-14:20 (15分間)	発表・質疑応答 Aグループ2回目	大型モニターで4カ所同時に発表 留学生は指定場所→時間がきたら 次の場所へ（ローテーション）
14:21-14:36 (15分間)	発表・質疑応答 Bグループ2回目	
全員・大会議室の指定席へ移動		

○課題研究テーマ

Booth	Session 1 13:10 - 13:24 Session 3 14:06 - 14:20	Session 2 13:25 - 13:39 Session 4 14:21 - 14:35
①	How Can We Make a Pleasant Place for Children?	Deposit Revolution
②	Change Food Labels, Change Your Life	What Do You Think About Refugees?
③	Let's Make Fish Powder!	The Key to the Decrease of Traffic Accidents
④	Anti-Aging ABCs	An Effective System to Save People from Flooding

2. 参観者のアンケート結果と感想



(1) 研究発表と質疑応答

- ▶質問に対して、一生懸命答えようとする姿勢が素晴らしかった。ただ、データの取り方やデータの正確性については改善の余地があるように感じました。
- ▶プレゼンテーションのスキル、特に表情が良かった。質問に対する役割・分割もできていてスムーズだった。リサーチも十分であったと思う。
- ▶全体的に発表の内容が論理的で多角的な視点から見られていた。ディスカッションには留学生だけでなく生徒も含まれており、参加している人全員が主体的に活動できていた。何より、全員が非常に上手に英語を使い、ディスカッションもよくなされていた。
- ▶SDGsという大きなテーマを扱いながら、魚粉やリフレクターのデザインなど、身近なテーマと関連づけて探究されていた。また、そのテーマがより大きな社会へとつながっていた。

(2) 生徒による企画・運営について

- ▶発表者も司会者も堂々としていた。
- ▶生徒にとって大きな経験になることが1番で、これだけのものを自分たちで実施するというのは自信になる。
- ▶あいさつから案内までとっても気持ちが良かったです。
- ▶自信をもって、自分の言葉で話していることが良かったと思います。



3. 生徒の感想

[3年SGコース]

- ▶1年以上かけて研究してきたことを、10分もない時間の内に収めるのは少しもったいない気もした。でも、裏を返せば「本当に伝えたいこと」だけをしっかり伝えられたのかな、と思った。発表直前の数日間は、その「本当に伝えたいこと」を絞り込むという過程を通して、プレゼンの内容がどんどん良くなっていくのが目に見えて分かった。本番でも、頂いた質問や意見を聞いていると伝えたいことはしっかり伝わったんだなと思って嬉しかった。
- ▶今回の発表会を終えて、今まで本当にいろいろな方に支えていただいたなと感じました。私たちの班は、アンケートやコンビニでの実証方法、栄養士さんからのアドバイスなどを通して最後までやり切ることができました。個人としては外部と交渉する力、質問に対応する力が探究を通して向上したと思います。



- ▶活動を通して何度も人の気持ちを慮ることの大切さについて考えさせられました。研究をする過程では、意見がぶつかり合うのが当たり前な中で1つのチームとしての考えを提示しなければならないし、発表というものが聴衆とのコミュニケーションであり、常に周りの状況を観察して物事を進める必要があったからです。

▶留学生の1人がプレゼンテーションが終わった後にわざわざ私のもとに来て、「とても良かった」と言ってくれて、本当に感無量でした。凄い達成感でした。私たちの班はずっと結論が1つにまとまらなくて、答えがどこにも見つからなくてとても辛かったです。でも、答えのない問題に向き合うとはまさにこのことで、大人でも解決できない難題にチャレンジできたことを今では誇りに思っています。

▶探究の中では、できないことにぶつかり自分の無力さを感じることもあったけれど、その中でも自分たちのアイデアや行動力を最大限に活用して1歩前に進む方法を考えることができるようになったと思います。誰かを幸せにしたいという気持ちは人々の心を動かし、大きな力になるということ、またその気持ちは世界共通であることを実感することができました。

▶今日の最後のプレゼンテーションで今まで研究してきたことを日本人だけでなく、海外の人にも発表することができて、今までの研究の成果を見せることができてとても満足しています。去年の3年生が英語でプレゼンテーションをしているのを見たときは“自分はこんなことができるのだろうか？”と思っていましたが、アメリカ研修やいろんな場所での発表を通して、自分の英語力と人前で話すことに自信が持てるようになりました。この研究を通して私が学んだ最も大切なことは、ローカルな問題を研究するだけでなく、そこに“世界”でも同じ問題は起きていないか？など世界を意識した考えを入れると高校生の私たちでも世界問題を解決できる可能性が生まれてくるということです。私はこの研究を始める前まで、正直、世界の問題はどこかの偉い人たちが解決する、など他人事に思っていました。しかし、この研究を通して、ニュースでみる日本、世界の課題は“私たち”が解決していかなければいけないと思うようになりました。このように世界を視野に入れた研究、そこから学んだことはとても良い経験で、今後絶対自分のためになると信じています。



[2年SGコース]

▶留学生の方との質疑応答を見て、来年自分は本当にこんなことができるのかとすごく不安に思いました。先輩方はとても楽しそうに発表をしていたので、これから研究を進めていくのが楽しみにまりました。

▶1番印象的だったのは先輩方の笑顔と臨機応変な対応力でした。先輩方の伝えたい想いがとても伝わってきました。

▶最後にスピーチをしていた代表の3年生も「去年の3年生の発表に感銘を受けた」と言っていたので、私たちも今日受けた刺激を糧に頑張らなければいけないと実感しました。丸1年間以上もかけて自分たちが研究し続けてきたことの集大成で、3年生もそれぞれ自分の発表に強い思い入れがあったと思うけど、それをしっかり自分のものとして自信を持って発表する姿は本当にかっこよかったです。来年はそう思われるような姿になりたいと強く感じました。

4. 成果

1年半試行錯誤しながら取り組んできた研究成果を英語で発表するという大きな課題を通して、生徒は本当に成長したと確信する。中でも、英語での質疑応答に際して即興的に対応することができる力を発揮できたことは、目指してきた教育の大きな成果だといえる。1年前に先輩たちの姿を見て、到達モデルを認識したことが、持続可能で発展的な学びの鍵であったはずだ。

第7節 「インテグレートッド・イングリッシュ」(1単位)

1-1 目的

本校の学校設定科目「インテグレートッド・イングリッシュ」では、自主教材を用いて、実践的コミュニケーション能力のさらなる向上と、昨年度からの課題研究をグローバルな視点で展開し英語で発信することを目的として授業を展開する。英語の4技能を統合的に高め、コミュニケーションツールとして活用できることを目的とする。

1-2 内容と方法

(1) 生徒の現状と「インテグレートッド・イングリッシュ」の方向性

3年次普通科SGコースの対象生徒40人に週1回の授業を展開する。7月の成果発表会における英語での研究発表に向けて、聴衆の心に訴えかけるプレゼンテーションの方法を学ぶ。また、質疑応答で自らが興味・関心を持った内容について理解を深めることができるように英語で質問をしたり、質問に対して自分たちの意見や見解を的確に伝えたり、追加説明を自分の言葉で行うことができる即興力を身につけることも目指す。さらには研究内容をまとめた論文を英語で書くための論理的な思考力、表現力を高める。

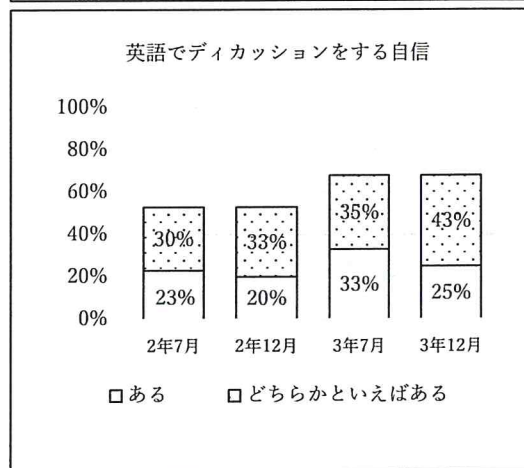
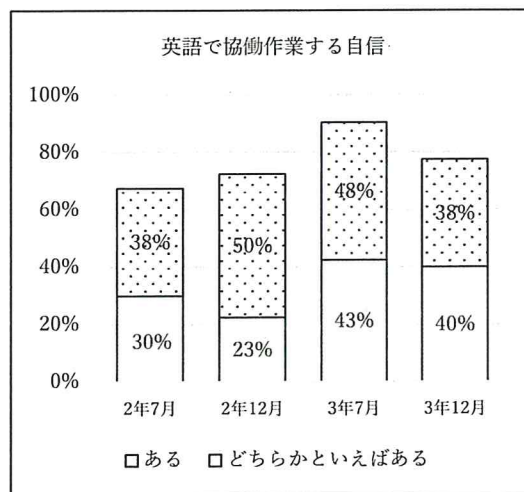
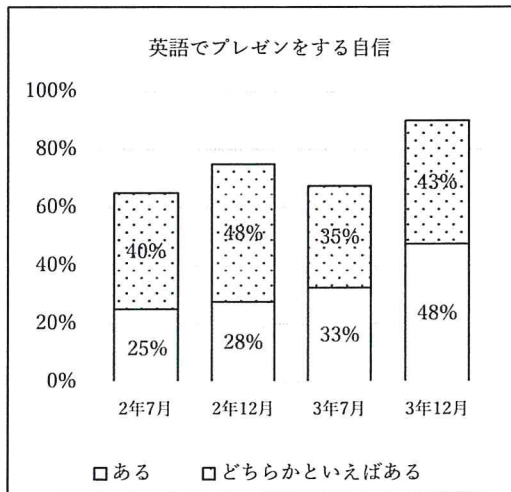
(2) 教員間の方針の共有

日本人英語教諭2名によるティームティーチングで、英語の4技能(読む、書く、聞く、話す)を高めるためにさまざまな言語活動を行う。研究発表に向けた授業では「聞くこと」「話すこと」を中心に、論文作成を目指して「書くこと」「読むこと」に取り組みせる。

1-3 実施概要

7月の成果発表に向けて、SG探究活用と2時間続きで授業を行うことで、研究内容の深化と、英語で発表するための準備を同時に行うことができるよう配慮した。プレゼンテーションや質疑応答の準備、練習のほか、論理的な文章を読んで要約する練習等により、良いモデルに触れると同時に自分の考えを論理的に表現する力を高めることに努めた。またグラフ等の読み取りとその要約を通して、効果的なプレゼンテーションのための資料の工夫や手法を学ぶ機会とし、講師を招いた英語プレゼン特別講座により、理解を深めるための一助とした。英語運用能力(4技能)を測定するためにTEAPを受験し、客観的な評価も行った。

2 成果と課題

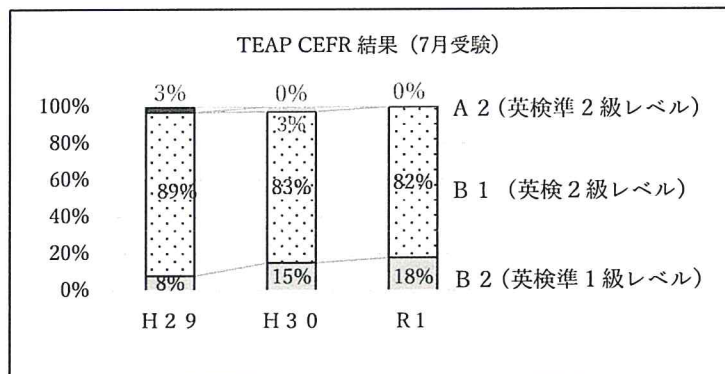


校内で実施した自己評価アンケート結果の推移を見ると、3年次7月の成果発表会での英語プレゼンテーションに向けた取り組みを通して、英語によるプレゼンテーションと共同作業に対して着実に自信をつけていったことがわかる。驚くべきことに12月の時点でさらに自信を深めている。4技能を伸ばす工夫がなされている英語の授業を通してプレゼン能力に対する自信が高まっていったと推測できる。また、質疑応答などで求められる即興力については、英語でのディスカッション

に対しての自信の変化で見て取ることができる。3年次において、成果発表のある7月で即興的な場面での英語運用能力に対する自信を著しく高めた生徒が多いことは大きな成果である。

また4技能型のTEAPを7月に受験した結果、前年度同時期と比較すると、B2に位置する生徒が前年度の15%から18%へとさらに増えていることが見て取れる。英語でのプレゼンテーションや英語の授業を通して、英語運用能力に対する生徒の意識の高まりが、確実に結果に結びついていると考えることができる。

授業の中でも発信型の英語力の向上に努め、生徒たちが2年次よりもさらに英語に対する自信を深め、4技能型の試験でも成果をあげていることにより、グローバルな社会で不可欠とされる英語運用能力を高めるための方法が確立してきていると判断することができる。継続して発信型の授業を工夫を重ねていく



いくことでさらに多くの生徒に良い影響を及ぼしていけることが期待できる。

第7節 「インテグレートッド・イングリッシュ」

【特別プログラム】英語プレゼン講座

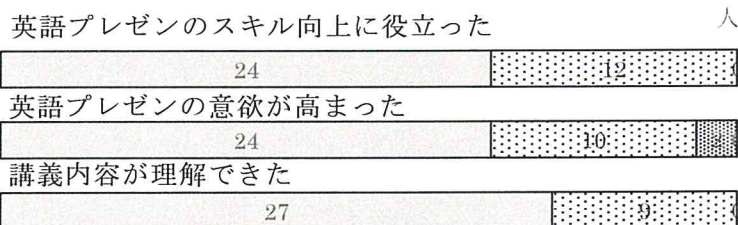
1. 実施概要

- 目的：「インテグレートッド・イングリッシュ」の授業において実践的英語活用能力を養成する一環として、英語で行う成果発表会に向けて、英語によるプレゼンテーションの技法を学ぶ。
- 日時：令和元年6月10日（月）10:25～11:15
- 対象：3年SGコース40名
- 講師：結城正美氏（金沢大学人間社会学域国際学類 教授）
- 会場：iStudio（理科講義室）
- 内容：研究発表を英語で行うための技法についての講義

2. アンケート結果と生徒の感想

英語プレゼン講座 事後アンケート

とてもそう思う 思う あまり 思わない



○生徒の感想

- ▶間の取り方によって聞き手の考える余地を増やし、関心をひくことができるという点はとても興味深かった。また、間は自分の心の中に広がるイメージをつなぎ整理する役割も果たしていることに気づき、感動した。講演全体を通して自分は心から何を伝えたいのか、何のためにプレゼンを行うかについて十分に考えさせられたので、とても良い機会であった。
- ▶話をする前に、オーディエンスと目を合わせることが大切だということにとっても納得できました。いつもの授業でも最初は違うことを考えていても、先生と目を合わせることによって頭を授業モードに切り替えることができます。
- ▶心（心臓）に話しの中心があるから、心から離れたジェスチャーは大きくなることを初めて知り、とても驚いた。話す前にオーディエンスとアイコンタクトをすることや、話し始めはとてとゆっくりと話すべきだ、などやってみたいスキルがたくさんあった。

3. 成果

講義内容が理解できたと答える生徒の数が増えたことから、英語の理解力の高まりが見取れる。わずか1時間ではあったが、英語でのプレゼンテーションの秘訣を学ぶ素晴らしい機会となった。また、実際にそのスキルを意識して話すことにより、体験を通じた確認もできた。7月の成果発表に向けて、生徒の意識とモチベーションを大きく高めることができた。

第8節 「グローバルリーダー養成講座」

(A) グローバル×医学部

1. 実施概要

○目的：現在金沢大学医学部に在籍している四人の卒業生を招き、医学部生から見るグローバル課題について聞くとともに、医学が今後グローバル社会の中で果たす役割について学ぶ。

○日時：令和元年11月15日（金）15：15～16：45

○場所：理科講義室（iStudio）

○対象：1・2年希望者および医学部進学を志す3年希望者

○講師：荒井 悠（金沢大学医薬保健学域医学類1年） SGコース1期生
前田 珠里（金沢大学医薬保健学域医学類1年） SGコース1期生
西田 光佑（金沢大学医薬保健学域医学類1年） 理数科卒業
佐々木雪乃（金沢大学医薬保健学域医学類1年） SGコース1期生

○日程：第1部 テーマ「医学部生が見たグローバル課題」
第2部 テーマ「医学部生であるということ」



2. 生徒の感想

▶私も海外で医者として活動するという事に以前から興味があったので、今日のお話を聞いて、さらに海外で活動してみたいという気持ちが強まりました。でも、皆さんがおっしゃっていたように、言葉が通じない中で様々な人とコミュニケーションをとることは本当に難しいことだと思いました。そういった状況にも対応できるよう、大学ではたくさん経験の積むために色々なことに挑戦していこうと思いました。皆さんのように、外国の医療問題解決の力になりたいです。



▶言語が通じない異郷の地、ベトナムへ行っても子供たちのために必死にボランティア活動を行うということに強く尊敬しました。今回の話を聞いて、私も2年後、誰かのために自ら行動できるような人間になりたいと思いました。

▶この講座を受けて、一番印象的だったことは、医学部でも海外に短期留学やボランティアに行くことができるということです。皆さんのお話を通して、外国でのボランティア活動にとっても興味を持ちました。少しでも困っている人の役に立ちたいし、いろいろな人と出会って、いろんな価値観に触れることで自分の人間性を高めたいです。

3. 成果

医学の道を志す生徒にとって、人の役に立つことや社会に貢献しようとする思いを再確認することは、キャリア形成において重要である。実際に海外ボランティア等の活動を行っている先輩に触れることで、改めて自らの志望を固め、意欲を高める機会となっただけではなく、グローバル社会と医療との関係について考える機会ともなったようだ。

第8節 「グローバルリーダー養成講座」

(B) グローバル体験報告会①

1. 実施概要

○目的：①同年代の高校生が体験した海外での生活や経験について紹介してもらうことで、視野を広げ、将来における海外での活躍を志すマインドを養成する。

②留学経験者が自らの体験を整理し、プレゼンを通して発信する機会を保障する。

○日時：令和元年9月20日（金）15：20～17：00

○発表者：2313 塔島 百恵「My Story Abroad」（長期留学：カナダ）

2410 多田・2417 松岡・2436 野間・2439 松井

「Asia Youth Leaders in Vietnam ～ワンダ フォー」

（イオン1%クラブ アジアユースリーダーズ 2019:ベトナム）

2415 架谷 ひなた「マレーシアでの2週間」

（ライオンズクラブ合同キャンプ：マレーシア）*英語で発表

2822 庄田 蓮 「Grab the Core」（AIG 高校生外交官日本プログラム）

○場所：視聴覚室

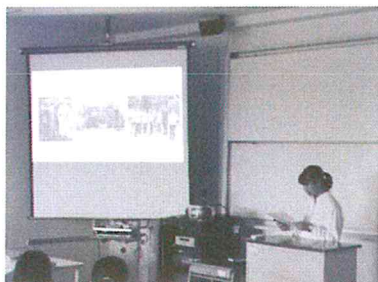
○内容：プレゼンソフト（パワーポイント）を活用し、10分で、体験してきたことや留学を通して考えたことなどを発表する。その後、5分間の質疑応答を行う。

2. 生徒の感想

▶私は短期留学に行くことを考えているけど、話を聞いて長期留学では短期留学の何倍も得られるものがあると分かった。コミュニケーション力や自主性、人との関わり方について考えて向上させる効果が留学にはあると分かった。

▶自ら、自分の英語力を高めるには色々な経験をしようとしていて、またそれをしっかり身につけられていることがすごいなあと思いました。大事なのは英語力でなく、人間性であるということ言っていて、やはり海外に出て必要なのは間違いを恐れず自分の意見を伝えたいという気持ちを強く持って、積極的に行動することなのだと思います。

▶いろんな国の人と協力して、1つのことについて議論するというのは難しそうだなと思いましたが、発表してくれた4人は異文化を受け入れ、異文化を楽しんでいたように思えました。そういう経験は実際に外国人と触れ合わないとは経験できないことだと思います。私も色々な文化に触れてみたいと思いました。



▶まず、英語でプレゼンしているのが本当にすごいと思いました。マレーシアでの2週間を通して、大切な友達を作ることができていて、それはコミュニケーションができればできないものだと思うので、やはり Try positively につながるのかなと感じました。日本と他国との文化の違いなども感じる事ができ、また外国にさらに興味がわいたと言っていて2週間で色々なものを吸収したのだなと思いました。Try positively と言っていたように、私も色々な事に前向きに挑戦したいです。



第8節 「グローバルリーダー養成講座」

(B) グローバル体験報告会②



1. 実施概要

○目的：グローバル体験報告会①に同じ

○日時：令和元年10月21日（月）16:20～17:20

○対象：1・2年希望者

○発表者：2112 中曽根章子 「世界が広がる留学」（トビタテ留学 JAPAN）

2322 宗田小都華 「経験した CHINA」（個人短期留学）

2323 室田采美 「GO!!! England!!!」（個人短期留学）

2406 斉藤伊麻里 「トビタテでできること My experiences in England」

（トビタテ留学 JAPAN）

○場所：理科講義室（iStudio）

2. 生徒の感想

▶最初はポスターに興味を持ったからという理由でも、言語や文化の違いや、そこにある考え方の違いに興味を持って1度の留学でたくさんの経験をして、自分や世間の偏見を見直していたというのが凄いなと思いました。

▶すごく発見が多そうな留学で楽しそうだった。勘違いや偏見は自分もいつの間にかあると思うので、実際に国に行って、肌で感じる事はとても重要だと思った。勝手な思い込みに気づくことができるので、留学は大きなチャンスだと思った。

▶トビタテ留学 JAPAN は準備もとっても大変そうだが、特有の活動で普通の留学よりも学びが多いとわかった。アンバサダー活動でホストファミリーの言葉に落ちこんだことが今の頑張りの原動力となっていると話に、ただ留学へ行くよりは困難なことをある方へ進む方が自分を成長させることができると思った。

▶日本以外の国から来た留学生と一緒に英語の授業を受けるのはとても刺激がありそうだなと思いました。また、自分を変えるためには積極的になること、間違いを恐れないことが大切なのだと改めて感じました。留学を通して自分と向き合える、というのは考えたことがなかったので驚きました。

▶まず、私が驚いたのはわざわざいろいろな国籍を持つ人が集まる学校を選んだことです。私だったら絶対日本人がいるところを選んでしまうと思うので、本当に尊敬しかありません。話を聞いていて、外国人と仲良くなるには自分からきっかけ作りをしたり、相手の母国語で話しかけたりするということがわかり、私も交流があれば絶対使いたいです。



3. 成果

発表者は留学から学んだことを自ら整理することで、良い振り返りの機会となった。また、同じ年代の生徒が挑戦をして一歩踏み出していることや、それによって新しい視座を獲得していることを知った聴衆にとっても、自らも挑戦しようとする意欲を高める機会となったようである。

第8節 「グローバルリーダー養成講座」

(C) 京都大学出前講座

1. 実施概要

- 目的： グローバル問題の研究に触れることで、視野を広げ、国際社会で活躍しようと志す生徒を育成する。
- 日時： 令和元年9月15日（水）16：20～17：20
- 対象： 1・2年希望者
- 場所： 理科講義室(iStudio)
- 演題：「京大で考える SDGs(持続可能な開発目標)」
- 講師：安藤 悠太 氏 （京都大学大学院工学研究科）

2. 生徒感想

▶SDGsは確かにわからないけれど、なんとなく勉強したり調べたりしてきた。世の中のことを完璧に網羅しているものだと思っていたけれど、様々な目線から見ると、不完全なところが分かって興味深いなと思った。SDGsを達成するために自主的にSDGsをもっと学んで本当に地球にとって人々にとって動物にとって自然にとって良いこととか利益になることとかを考えてみたいと思った。具体的ではないけれども、考えることができて本当に良かった。



▶僕は将来研究職に就きたいと以前から思っていたが、それは単純に科学が好きだからであってSDGsのような社会問題と研究者という夢を結びつけたことはなかった。しかし今回の講演を聞いて、自分の中で社会問題というものと科学というものがすっきりと結びついた気がする。知識を増やして思考力を鍛えて社会問題、つまり世界に対する理解を深めるという試みは自然科学という営みと非常に似通っていると思う。異なる分野の共通点を見つけるのはやはり大事なことなのだろうと思った。

▶SDGsを国連から与えられたものとして捉えるのではなく、自分たちで定義し直すという考え方はとても斬新でした。例えば貧困を無くすのは絶対に必要だと言っても地域や人によって、価値観は異なるため、一概には言い切れない…などと、今までの自分の考え方にも疑問を投げかけることができました。また以前は大学の研究を、果てしないもので、よくわからないと考えていましたが、先輩の講義を聴いて少し研究というもののかかりを掴めたと思います。今日は本当にありがとうございました。

3. 成果

「SDGs」とは何かを改めて考える機会となった。生徒たちは、安藤さんの発問から国にはそれぞれの立場があり、立場によって価値観は大きく変わるという点に気づいた。講義を通して、今後の進路や研究について深く考える契機となった。



第8節 「グローバルリーダー養成講座」

(D) YUセミナー

1. 実施概要

- 目的：実際にグローバルに活躍する人物の言葉や考え方に触れ、国際的に通用する前向きな姿勢や心構えを涵養し、グローバルに活躍しようと志す生徒を育成する。
- 講師：由水 南氏（本校OG、ブロードウェイ俳優）
- 日時：令和元年10月24日（木）16：20～18：00
- 対象：1・2年希望者 第1部：66名 第2部：35名
- 場所：第1部：大会議室 第2部：iStudio

2. 生徒感想

▶講演を聞いて、自分は周りのいろんな人に影響されすぎているなど感じました。今日まで、本当の自分だけの心と1対1で向き合ったことが、ほとんどなかったと思います。他の人の意見ではなく、自分の気持ちに敏感になって、もっと積極的に行動していこうと思います。そして、自分の本当にしたいことを軸として、まっすぐ、後悔しないように、最大限の力でやっていきたいと思いました。



▶自分の捉え方によって気持ちが変わることを聞いて、毎日1つつつでも自分のよかったところを見つけて行って、自然にポジティブになるようにしていきたいと思いました。自分をポジティブにして、自分の人生を自分のために使っていきたいです。“It’s up to you.”と“Challenge”を心に刻みたいと思います。

▶「本当はしたいけどできない」は自分で自分を制限しているだけである、という言葉が私自身に当てはまると思いました。公演中、何度も自分の行動や考え方を見直す機会ができて“Heart Connection”を感じることができました。辛い時と言うのは、「自分の軸」とずれている時だから、他者比較する事は辛さしか生み出さず自分の心とコネクトすることで辛さを乗り越えられるという言葉も納得しました。

▶心のチェックインで、なぜか心にぐっとくるものがあった。だから、これから毎日家を出る前に、心のチェックインをして、心の衝動に敏感になって、正直に生きていくよう心がけたい。

3. 成果

第1部の講演では、由水さんが大切にされている4つの言葉を生徒に伝えていただき、生徒自身の生き方、在り方を深く考える時間となった。その後に行われた身体を使ったワークショップでは、身体を用いて表現する楽しさを実感した。本講座を通して、高校生が普段感じる様々な悩み、葛藤、これからの人生を考える時間となった。



第9節 「NS探究α」（2年普通コース文型 1単位）
「NS探究β」（3年普通コース文型 1単位）

1-1 目的

2年普通コース文型を対象とするNS探究αでは、自らを取り巻く地域の社会課題についての課題研究を通して、課題を発見する力や解決に向けて協働する力を涵養する。現地調査や実証実験を通して、科学的方法に基づいた分析力、批判的な思考力を養う。3年のNS探究βでは、それらの力をさらに発展的に育み、自らの生き方を考え、社会に貢献するために、主体的に自らの進路を考察することを目指す。SG探究で開発してきた探究活動の指導法を、教員間で共有し、普通コース文型の生徒への指導に波及する場でもある。

1-2 内容と方法

(1) 授業方法

SG探究で先進的に取り組んできた課題研究の指導の手法や教材を活用し、週1時間、普通コース文型3クラスを対象として行う。グローバル課題をテーマとするSG探究とは異なり、地域の社会問題に焦点を当てたグループ研究に取り組ませる。教員のファシリテーションの下、生徒のディスカッションを中心に展開。生徒は主体的・協働的に課題設定、調査を行い、校内発表会で研究成果を披露する。グループ研究で生まれた疑問や見解を基に、2年2月から新たに個人による課題研究を始める。

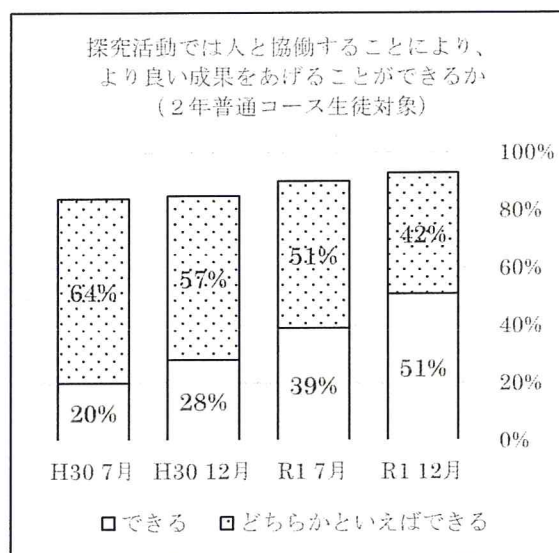


(2) 実施内容

2年12月の校内発表会に向けて、1学期は新聞等での情報収集、論文での先行研究調査、課題設定（リサーチクエスト・仮説の設定）、研究計画書作りを行う。夏季休業中に県内フィールドワーク調査、10月には修学旅行先の台湾でフィールドワーク調査を行い、最終的な提言につながるデータや情報を収集する。考察と発表資料作りの後、12月の発表会で成果をプレゼンする。そこで選出された3グループが本校代表として、1月のNSH課題研究合同発表会に出場する。グループ研究で生まれた新たな疑問や見解を基に、2月から新たに個人による課題研究を始め、3年NS探究βでも継続する。先行研究の論文調査を中心として行い、7月にポスター形式で研究成果をまとめ、発表する。

2 成果と課題

校内の自己評価アンケート結果を見ると「協働」に関する12月の評価は、7月からだけでなく、昨年度に比べて向上している。特に今年度は校外でのフィールドワーク調査を積極的に行うことを促してきた。例えばアンケート項目を考えたり、外部機関に調査の依頼をしたりする中で、協働しなければ乗り越えられない体験を多く積んだことがこの一因と考えられる。SG探究での成功例や注意点を教員間で共有し、指導に当たることができたことも大きな要因である。今後、更なる改善に取り組みたい。



第9節 「NS探究」

【特別プログラム】

いしかわニュースーパーハイスクール（NSH）課題研究合同発表会

1. 実施概要

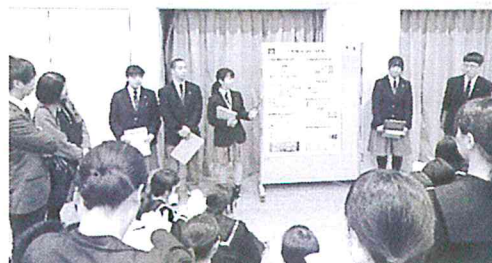
- 目的：2年普通コース文型のNS探究α校内発表会（12月）で最優秀・優秀賞に選出された3グループが、本校代表として参加する。他校の生徒を相手に課題研究の成果を発表し、プレゼンテーションの能力やコミュニケーション能力の育成を目指す。
- 主催：石川県教育委員会
- 日時：令和2年1月28日（火）
- 会場：石川県地場産業振興センター
- 参加者：本校2年普通コース文型3グループ（計15人）に加え、小松、金沢二水、金沢桜丘、七尾、翠星の5校を含めて総勢33グループが参加。
- 内容：[第1部] 代表発表及び質疑応答
各校代表グループによるステージ口頭発表
[第2部] ポスター発表
ステージ発表以外のグループがポスター形式でプレゼン



2. 生徒の感想

▶先生方からのアドバイスやSGコースの生徒に向けての発表を通して、私達の研究がより深まり、洗練されたものになったと思います。スライドや口頭での説明の直しも幾度となく行い、大変でしたが、納得できるものにすることができました。何より、グループのメンバーの1人1人が研究の内容について主体的に調べ、積極的に話し合えたことが今日の発表の成功につながったと思います。考えがまとまらなくて大変だったこともあったけれど、みんなで議論し、まとめていく時間がとても楽しかったです。今後の大学生活、社会人となった時、この経験は絶対に生きてくると思います。

▶この発表会に参加できたのは、課題研究に一生懸命だった意欲のある班員のおかげだと強く思います。さまざまな意見が出るのは良いことでしたが、調べたいことが増えてしまい、時間が足りなくなることも多々ありました。そうやって色々考えたからこそできたものもあるとは思いますが、優先順位をつけて分担して準備をすることは重要だと感じました。私にとってこの探究活動はとても楽しく、良い思い出となりました。これからの活動でも楽しむということを大切にしていきたいです。そして、この楽しさを今後研究する人にも感じてほしいなと思います。



3. 成果

発表会を前に、SGコースの生徒に対する発表の機会を設けた。その際に様々な視点から想定外の質問や意見を受けたことで、研究の視点が広がり、論の展開やデータの提示の仕方等を修正し、本番の発表会を迎えることができた。発表会では、本校には見られないテーマの他校の発表に刺激を受けたようだった。今後、この3グループが発表会を経験したことで得た知見やプレゼンスキルを、他の生徒に還元できる機会を設けたい。